

特定居住支援法人による二地域居住促進モデル（鳥取県智頭町）

令和7年度 特定居住支援法人による二地域居住等の促進に向けた実証調査業務 最終報告サマリー

SHINRA COMPANY株式会社

1.課題と背景



人口半減
14,000→6,000人



住まい・仕事・
交流機会の不足



駅前飲食店が
続々閉店・空洞化

パラダイムシフト



お客様
(受動的)



事業共創プレイヤー
(能動的)

2.目的とアプローチ

福井邸完成イメージ図



ハード

駅前空き家をスタートアップ&交流拠点
+シェアレストラン拠点へ再生

ソフト

DIYワークショップ・滞在プログラム・
飲食イベントを通じ関係人口と地域を
つなぐ場を設計

3.実施内容

「全体企画・準備・調整」

期間：R7.8 → R7.12
内容：事業計画具体化・関係者調整・
DIY計画・シェアレストラン構想

実証① DIYウィーク・滞在プログラム

期間：R7.12 → R8.2
内容：第1回 12/1～12/5 第2回
1/25～1/31 第3回 2/7～2/18

実証② レセプション・交流・視察

期間：R7.12 → R8.3
内容：地元飲食事業者によるレセプ
ション・現場メシ・視察14件対応

シェアレストラン立ち上げ準備

期間：R8.1 → R8.3
内容：大阪視察3回・設計確定・厨房機
器選定・保健所協議

CHIPs (Chizu Incubation Platform) と連動し、
二地域居住者を「事業共創プレイヤー」として迎える智頭町モデルを構築

特定居住支援法人による二地域居住促進モデル（鳥取県智頭町）

令和7年度 特定居住支援法人による二地域居住等の促進に向けた実証調査業務 最終報告サマリー

SHINRA COMPANY株式会社

定量的な成果

- DIYウィーク参加者 37名（3回計17日間）
- 視察・見学受け入れ 14件
- CHIPs事業者来町 6チーム
- 実施イベント9回+DIY17日間

定性的な成果

- 関係人口の次フェーズへの移行
移住検討・継続関与希望者が複数名出現
- 事業創出の始動
出店希望者が竣工前に5者以上集結
- 運営体制の実装完了
設備選定/保健所協議完了、竣工後営業可能に

特定居住支援法人が担った3つの機能

ハード・ソフト
横断の工程調整



実証を起点とした
次の事業の創出



駅前エリアの
面的整備への展開



本実証調査から展開し、R7年度中の別事業への波及、
R8年度の智頭町独自予算化へと繋がった